

[第 39 回例会報告] =====

1. 参加者数：116名（学生会員8名含む）
2. 講演件数：16件（特別講演：1件、招待講演：3件、一般講演：16件（学生口頭発表8件含む）
3. 今回の例会を振り返って（運営委員長：内藤 裕義 大阪公立大学）

第39回の例会は、北陸新幹線が延伸された福井市にある福井県民ホールで開催されました。

今回の例会では、上述の通り、特別講演1件、特別セッション（招待講演）3件、一般口頭発表16件（うち、学生口頭発表8件）で計20件の講演があり、116名の参加登録者を得て開催することができました。

特別講演では、福井大学遠赤外領域開発センターの谷 正彦氏から、「テラヘルツ時間領域分光法の基礎と電気・電子材料評価への応用」と題し、電子材料評価におけるテラヘルツ時間領域分光法の有用性をご講演いただきました。特別セッションでは、次世代アプリケーションをテーマに、テック・アンド・ビズの北原 洋明氏から、「AR/VR系マイクロディスプレイの技術動向」、KOALA TechのFatima Bencheikh氏から「Highly directional, color-pure organic semiconductor electroluminescent devices」、高知工科大学の松尾 匠氏から「低次元フマロニトリル分子結晶の作製とレーザーフォトニクス」と題するご講演をいただきました。いずれも次世代のAR/VRにとって重要なデバイスであり、最先端のデバイス技術を学ぶことができました。

一般講演においては、材料、プロセス、ショート口頭発表、学生口頭発表の4セッションを設け、16件の講演がありました。内容としては、熱活性化遅延蛍光を利用する近赤外有機EL素子の開発、アゼピンを用いた深青色多重共鳴効果材料の開発、自発的な配向分極を示す極性分子の開発とOLED応用、TE OLEDにおけるカソード電極スパッタプロセスのダメージ分析、ポリシラザンを用いたバリア膜の開発、新規低レート用膜厚モニターの開発、金属バッファ層との配位結合を利用した青色逆構造有機ELの高性能化、X線光電子分光法を用いた有機多層膜の深さ方向電子状態解析、学生口頭発表では、デバイス・評価に関する4CzIPNを含むMIS型素子のDCM-PL法による励起子消光特性評価など、アップコンバージョンに関するアントラセン多量体での高速アップコンバージョン発光など多岐に渡り、有機発光材料、発光ダイオードなどの基礎的な理解、高性能化、新しい応用の開拓が期待できる内容でした。

初日のショート口頭発表終了後には、展示会出展7社による企業展示広告のセッションを行い、その後、交流会開始まで25分の休憩・移動時間を設けました。以前の例会より休憩時間を長くし、参加者が企業展示ブースで十分な質疑ができるように配慮しました。交流会は、福井県民ホールからハピリンホールに移動し開催しました。

アンケートについては今回37名の方から回答をいただきました。特別講演、特別セッションで取り上げるべきテーマ、例会開催場所、運営上の問題など、頂戴したコメントは今後の参考とさせていただきます。運営委員会としましては引き続き、有機ELの最新動向に関連するトピック、および、有機ELのデバイス開発や評価・基礎物性などの講演を募って、会員の皆様の研究開発に活かして頂けるような例会を目指していきたいと考えております。宜しくお願ひ申し上げます。

4. 例会プログラム・アンケート結果

https://yuki-tohronkai.jp/data/program/program39_1.pdf : 例会プログラム

<https://yuki-tohronkai.jp/data/question/20241223.pdf> : アンケート結果

5. 次回例会の開催案内（次期実行委員長：中野谷 一 九州大学）

第40回例会は、2025年6月26日（木）、27日（金）に東京国際交流館（東京 お台場）にて開催致します。詳細な開催案内は3月中旬頃に公開する予定で進めておりますので、皆さまのご投稿およびご参加をお待ちしております。

=====以上